

海洋曝露環境における作業用衣服の実態調査 - 台湾地区漁労作業者の場合 -

中橋美智子、村山雅己*、○鄭如伶**、中村公子

(*船舶艤装品研、**台南女技術学院)

【目的】船舶・海洋（浮体）構造物上における労働作業には多種多様ある。しかしながら、漁船における作業は海面近くでの作業が多く、かつ魚を取り扱うことから、暑熱下においても合羽の着用がみられるなど、海洋曝露環境の特徴が作業服に現れている。すでに日本全域にわたりその着用衣服の実態調査を試み、興味深い結果を得ているが、さらに日本に近接している台湾地区における漁労作業者の作業（着用）衣服に関する実態調査を試みた。手始めとして台湾における北部と南部地域の漁港において調査を行った。

【方法】〔調査対象漁港〕北部（台北；基隆港）及び南部（台南；興達港、高雄；高雄港、屏東；東港漁港、恒春；恒春漁港、枋山漁港）。〔調査方法〕漁業協同組合、漁労作業者からの聞きとり、水揚げ作業時の服装観察、漁労作業者のアンケート調査。

【結果】台湾の気候は冬においても20℃程度であり、温暖な気候であることから、日帰り漁船における作業者は素足にサンダル、半ズボン、Tシャツである。魚を取り扱うときにはビニール合羽を上のみ着用するが、殆ど着用しない。日本においては、温暖地域においてもズボンのみは合羽を着用する。台湾地域においての日帰り漁船作業者の衣服は普段と変わらず、作業着の意識がない。以下に漁業別の代表作業用衣服を示す。

〔2~3日出航〕肌シャツ(長袖)、トレーナー(長袖)、ジャンパー、合羽、パンツ、作業用ズボン(ジャージ)、合羽ズボン(長靴付き)、靴下(薄手)、軍手orゴム手袋、野球帽。〔日帰り〕肌シャツ半袖、トレーナー(半袖or長袖)、合羽、パンツ、作業用ズボン(ジャージ)、軍手、野球帽or麦わら帽、サンダル。ゴム長靴は使用されず素足である。